



作・演出 Ping Chong

(ピン・チョン)

演出家、振付家、映像アーティスト、Ping Chong + Company創設者。演劇にメディアを取り入れたパイオニア的存在の国際的アーティスト。1972年以来、国内外で100を超える作品を制作する。人形劇やダンス、ドキュメンタリー劇、サウンド、メディア、その他の実験的な演劇手法を取り入れ、アフリカで隠ぺいされた大虐殺から中国の近代化、9.11以降のアメリカでの若いイスラム教徒の体験まで幅広いテーマを探求している。1995年東京国際舞台芸術フェスティバルで『ガイジン〜もうひとつの東京物語』を阪本洋三氏と共作・共同演出で発表。アメリカ最高位の芸術賞・National Medal of Arts(国家芸術勲章)のほか、BESSIE賞(ニューヨーク・ダンスパフォーマンス賞)、OBIE賞(オフ・ブロードウェイ演劇賞)を受賞。

企画・共作・共同演出 阪本 洋三

(さかもと ひろみ)



舞台芸術プロデューサー、演出家。NHKドラマディレクターを経てフリーに。ニューヨークを拠点に異文化の共存・共生を目的とした国際的文化交流のNPOを立ち上げ、国際交流基金Performing Arts JAPANや文化庁の日米舞台芸術交流事業、NHKのドキュメンタリー番組制作など文化事業の企画制作を手がけた。またプロデューサーの芸術家とオリジナル・ミュージカルを制作・演出したり、ニューヨーク・シティ・バレエ団やダンス・シアター・オブ・ハーレムの団員らと舞踊作品を作り発表してきた。チョン氏とはニューヨークで出会い、Undesirable Elementsのオリジナル・キャストとして参加、再演時には演出補佐を務めた。現在、近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻教授として研究・教育にも携わっている。

企画 鈴木京子 (日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS パフォーミングアーツ・グループ プロデューサー)

制作 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

スケジュール

応募受付	6月30日(土) 締切	※受付を完了した方にはメール等で通知
一次選考 (書類選考)	7月中 → 【当落通知】7月25日(水) 以降に郵送	
二次選考 (面接選考会)	8月23日(木)～9月2日(日)	この期間のうち1日(個人面接2時間程度) ※詳細は一次選考通過者への通知で連絡
インタビュー	9月4日(火)～15日(土)	この期間のうち4日程度(台本作成のための個人インタビュー1日3時間)
リハーサル (読み稽古)	12月1日(土)～22日(土)	※平日は午後7時～9時 / 土日祝は1日6時間程度を予定
リハーサル (立ち稽古)	1月7日(月)～14日(月・祝)	※平日は午後7時～9時 / 土日祝は1日6時間程度を予定
東京公演 [東京芸術劇場]	1月15日(火)～17日(木)	ステージリハーサル 本番(4公演)
大阪公演 [ナレッジシアター]	1月25日(金) 1月26日(土)～27日(日)	ステージリハーサル 本番(3公演)

●二次選考以降のスケジュールは変更する場合があります。 ●面接やリハーサルは東京都内で実施します。会場の詳細は通知でお知らせします。

Ping Chong + Company (ピン・チョン+カンパニー)

現代社会における人種、文化、歴史、芸術、メディア、テクノロジーを交差させた舞台芸術作品を制作するため、演出家ピン・チョン氏により1975年にニューヨークで設立。チョン氏のもと、「オーラルヒストリー(口述歴史)・プロジェクト」を展開するほか、国内外の芸術祭や文化機関とのコラボレーションなど、多くの舞台芸術作品を制作している。

Undesirable Elements (アンデザイアブル・エレメント)

チョン氏のライフワークとなっている朗読劇シリーズ。社会の中でマイノリティ(少数派)として生きている人たちに焦点をあて、彼らへのインタビューをもとに構成された「ドキュメンタリー・シアター」。1995年「ガイジン〜もうひとつの東京物語」では、東京に居住する外国人など8人のキャストで上演(読売演劇賞作品賞受賞)。



Ping Chong's ドキュメンタリー・シアター Undesirable Elements

『生きづらさを抱える人たちの物語』 (仮題)

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS(ダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)パフォーミングアーツ・グループでは、ニューヨークを拠点に活躍されている演出家ピン・チョン氏によるドキュメンタリー・シアター・シリーズ「Undesirable Elements」の日本版オリジナル公演を2019年1月に開催します。チョン氏はこれまで、移民や、社会的マイノリティ、戦争孤児、LGBTなど、様々な「生きづらさを抱えながら生きている人々」にインタビューを試み、彼らの物語を演劇作品化して発表してきました。今回は、現代の日本で、障害のある人や社会に生きづらさを感じている方々から様々なエピソードをヒヤリング、インタビューし、それらを演劇的に再構築する、というオリジナル作品です。プロ・アマを問わず「自分自身を表現したい!」という出演者を募集します。面接や演出には日本語などの通訳がつきます。

東京公演 2019年1月18日(金)～20日(日) 東京芸術劇場 シアター・イースト
大阪公演 2019年1月26日(土)～27日(日) グランフロント大阪 ナレッジシアター

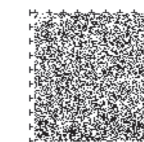
主催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS(ダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)

問合せ先
日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS(ダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)
パフォーミングアーツ・グループ 担当:森(もり)、奥本(おくもと)
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-3-5 野村ビル2階
TEL 03-5577-6627(平日午前9時～午後5時) FAX 03-6811-7787
MAIL info@dita-pa.jp http://dita-pa.jp/



出演者募集

応募締切
6月30日(土) 必着



募集要項

応募条件

- 16歳以上の障害のある方や社会に生きづらさを感じている方
※性別・国籍不問、未成年者(2019年1月26日時点)は保護者の同意が必要
- 演劇の経験は不問 初心者からプロの方まで応募できます!
※事務所所属者は所属先の許諾を得ること
- 会場までの介助が必要な場合は、ご自身で同伴する介助者を手配できること
- すべての日程に参加できる方
※面接選考会、インタビューの日時・場所については、一次選考を追加した方に個別に連絡します
- 日本語(日本手話)を読み・話せる方

●応募にかかる費用は自己負担。

●出演決定後、練習場所・劇場までの交通費と出演料を支給。
詳細は二次選考の通過後にお伝えします。

応募方法

郵送・メール・当財団のホームページ(<http://dita-pa.jp/>)の応募フォームのいずれかでご応募ください。

応募用紙(本紙内面・原寸大コピー可)、または当財団のホームページよりダウンロードした「かんたん版応募用紙」(A4判たて)に必要な事項を明記し、写真(上半身、全身各1枚)と一緒に、次の宛先までお送りください。メールの場合は、「かんたん版応募用紙」のワードファイルか、応募用紙をスキャンしたPDFファイルと、写真(上半身、全身各1枚)の画像ファイルを添付してください。

宛先	〈郵送〉 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-3-5 野村ビル2階 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS パフォーミングアーツ UE係
	〈メール〉 info@dita-pa.jp 【件名】UE応募

※アンケートへの回答に限り、音声データや点字で内容のわかるものでもかまいません。

※写真は一人で写り、ご本人の顔がわかるカラー写真(郵送の場合は写真裏面に名前を明記)を添付してください。

※応募資料(写真なども含む)は返却しません。

※音声や点字による応募については、当財団パフォーミングアーツ・グループまでお問合せください。

応募用紙

※黒のボールペンでご記入ください。水性ペンや摩擦熱で消えるペンは使わないでください。

※ご本人が記入できない場合は、代理の方をお願いします。

氏名	(よみがな)	性別	生年月日	
			男・女・他	年
電話番号	(連絡の取りやすい携帯電話番号)	FAX		
Eメールアドレス				
住所	郵便番号	—		
経歴	(舞台芸術の経歴、受賞歴、趣味、特技、学歴や職歴)	障害の有無	ある ・ ない	
		障害の種類		
必要なサポート内容	車いす利用のため段差なし ・ 手話 ・ 触手話 ・ 要約筆記 ・ 点字資料 ・ 拡大字資料			
稽古・出演に関して伝えたいこと	例：体温調整が困難、大きな音が苦手、宗教上やアレルギーの食事規定・禁忌あり など			

アンケート

※記入スペースが足りない場合は、別紙に記入して添付してください。

ここでの「障害」とは、障害者手帳など社会制度上の「障害」ではなく、生活するうえでの社会環境における「障害」を指しています。

1 あなたはなぜこの企画に応募しようと思われましたか?

2 あなたを知っている人はあなたのことをどう思っていますか? 肯定的・否定的のどちらでもかまいません。

3 あなたの「障害」または「生きづらさ」は何ですか?

4 あなたは「障害」または「生きづらさ」とどう向き合ってこられましたか?

5 あなたのご家族やあなたを支えてくれている人たちは、あなたの「障害」または「生きづらさ」とどう向き合ってこられましたか?

6 あなたは「自分がほかの人たちと違う」と感じるような瞬間がありましたか? それはどのような時に、どのような状況でしたか?

7 今まで、差別や偏見と言われるような目にあったことはありますか? その時の状況について教えてもらえますか?

8 「障害」または「生きづらさ」という言葉を聞いて、思い浮かべることは何ですか?

9 あなたのご家族やルーツのことで、何かエピソードやユニークなお話がありますか?

10 自分自身について、他に伝えたいことはありますか? 例)夢中になっていることや得意なこと、長く続けてきたこと、将来の夢 など